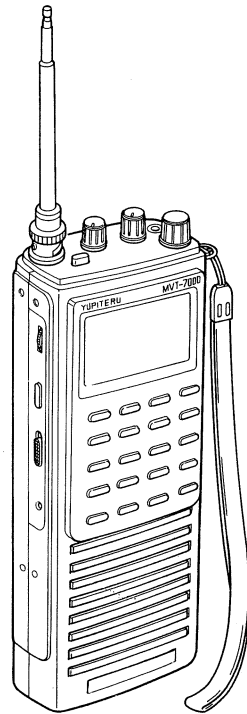


YUPITERU



マルチバンドレシーバー
MVT-7000

取扱説明書

はじめに

このたびはユビテルマルチバンドレシーバーMVT-7000をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、本機を正しくお使いください。また、この取扱説明書は、大切に保存してください。

万一ご使用中、わからないことや具合の悪いことが生じたときにお役に立ちます。

目次

第1章	使用前の確認・準備	3
	主な特長	4
	付属品	5
	使用上のご注意	6
	各部の名称とはたらき	8
	電源について	15
第2章	基本的な操作	17
	キー操作を始める前に	18
	数値キーによる選局	20
	チューニングダイヤルによる選局	26
	サーチ機能について	28
第3章	メモリーとスキャンについて	33
	チャンネルメモリーのしかた	34
	メモリーチャンネルの呼び出し	38
	チャンネルメモリースキャンについて	44
	バンクスキャンについて	46
	プログラムスキャンについて	48
	プライオリティ機能について	52
第4章	便利な機能	55
	サーチバンド内容書き替え	56
	スキップ機能	58
	ディレイ機能	58
	無変調パス機能	59
	アゲイン機能	59
	バッテリーセーブ機能	60
	ビープ音の消去	60
第5章	知っておきたいこと	61
	アフターサービスについて	62
	一般仕様	62

第1章

使用前の確認・準備

主な特長	4
付属品	5
使用上のご注意	6
各部の名称とはたらき	8
・本体	8
・ディスプレイ	10
・キーボード	12
電源について	15
・充電のしかた	15
・電池について	16

主な特長

付属品

■マイクロコンピュータによる豊富な操作機能

本機はマイクロコンピュータ技術を駆使し、マニアの要望に応える多彩な機能と、ビギナーのための簡単操作を実現した高性能受信機です。

■8~1,300MHzをWFM/NFM/AMモードでフルカバー

本機の受信保証範囲は、8~1,300MHzの広帯域。また、受信モードもワイドFM、ナローFM、AMを任意に選択できます。

■チューニングダイヤル機能を装備

キー入力によるダイレクト選局に加え、ダイヤルで選局できるチューニングダイヤル機能を備えています。

■豊富な周波数ステップ

周波数ステップは、それぞれの通信システムに対応できるように、5/10/12.5/25/50/100kHzの中から任意に選択できます。

■10バンドサーチ機能

本機は、FM放送や航空無線、パーソナル無線など主要10バンドを、周波数を調べずに簡単に受信できるサーチ機能を装備。さらに、その10バンドは内容を書き替えることができます。

■200チャンネルメモリー機能

聞きたい局を最大200チャンネルまで登録できる、大容量の200チャンネルメモリー機能。さらに、そのメモリーチャンネルを効率よく受信できるメモリースキャンやバンクスキャン、プログラムスキャン、プライオリティ機能など、多彩な機能を備えています。

■3電源方式

豊富な電源オプションにより、ニッケルカドミウム電池での携帯使用から、ACアダプターによる家庭電源使用、カーコネクターによる車載（12Vシガーライターソケット専用）使用までフル対応しています。

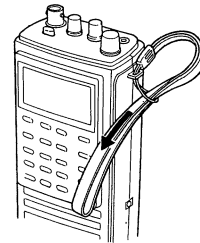
■豊富な受信機能・操作機能

- パスメモリー機能
- アゲイン機能
- 無変調パス機能
- シグナルメーター
- ディスプレイコントラスト調整機構
- キータッチ音ON/OFF機能
- キーロックスイッチ

- ロッドアンテナ (1)
- ACアダプター (1)
- カーコネクター (1)
- ニッケルカドミウム電池 (4)
- ハンドストラップ (1)
- ベルトクリップ (1)

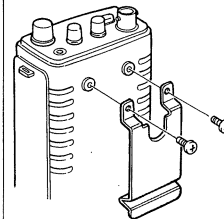
- ベルトクリップ取り付けネジ (2)
- イヤホン (1)
- 取扱説明書 (1)
- 保証書 (1)
- お客様ご相談窓口一覧 (1)

ハンドストラップ



本体側面の取り付け金具に図のように取り付けます。

ベルトクリップ



本体背面に図のようにして取り付けます。

置き場所について

- 次のような場所での使用や放置はしないでください。
- 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く、あるいは炎天下の自動車内など温度の高くなる場所
 - 湿度の高い場所や風通しの悪い場所
 - ホコリや油煙の多い場所
 - 非常に温度が低い場所
 - 電気製品などの近く

安全のために

- ぬれた手で、電源プラグなどの抜き差しはしないでください。
- コード類を無理に曲げたり、重い物をのせたりしないでください。
- 本機は精密機器ですので、中をあけ内部に触れたり、金属や異物を入れないでください。

取り扱いについて

- 持ち歩くときは、落下などの衝撃を与えないでください。
- 本機が汚れたときは、柔らかい布などでふいてください。ポリエステルなどの静電気の起きやすいもの、ベンジンやシンナー、化学ぞうきん、洗剤は使用しないでください。
- 本機は、広帯域受信機ですので、受信機内部の発振（スプリアス）により受信できなかったり、雑音を発生する周波数もあります。

アンテナについて

- 付属のロッドアンテナ以外に、市販のアンテナも使用できますが、その際は、受信周波数に合ったアンテナを使用してください。
- 近くに放送局など強い電波があるときは、混変調を起こすことがあるのでご注意ください。以上の理由により、増幅回路付きの外部アンテナなどは、使用しないでください。

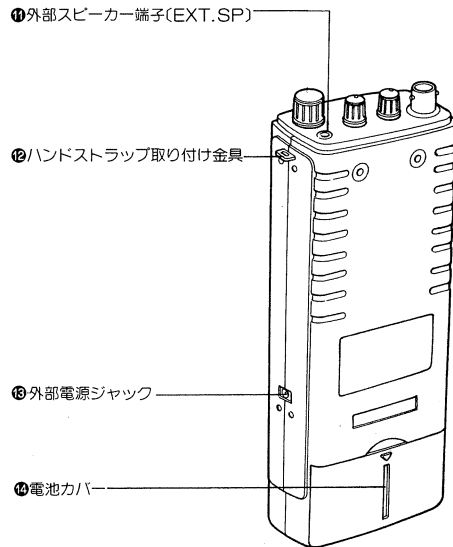
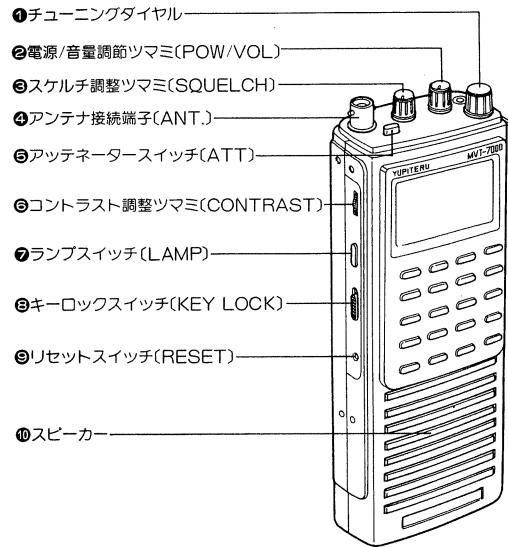
リセットスイッチについて

- 次のようなときは、リセットスイッチをボールペンの先などで押して、初期状態にしてください。
- 購入後、初めて使用するとき
 - 登録した内容をすべて消去するとき
 - ディスプレイの表示が異常なとき
 - 電池が完全に消耗したとき

お客様が受信した内容は、電波法上、第三者に漏らしたり、行動に移したりすることが禁止されています。

万一、異常や不具合が起きたときは、お問い合わせの販売店または、最寄りの「お客様ご相談窓口」(添付の一覧表をご参照願います。)にご相談ください。

本 体



①チューニングダイヤル

周波数の設定やメモリー呼び出しチャンネルの切り替えができます。

②電源/音量調節ツマミ(POW/VOL)

右に回すと電源が入り、さらに回すと音量が大きくなります。

③スケルチ調整ツマミ(SQUELCH)

無信号時の「ザー」という雑音を消し、受信信号を最良の状態を受信するために使います。

④アンテナ接続端子(ANT.)

付属のアンテナを接続する端子です。

⑤アッテネータースイッチ(ATT)

放送局の電波など強力な電波による混信や雑音の影響を受ける場合に、このスイッチをONにしますが、通常はOFFにしてご使用ください。

⑥コントラスト調整ツマミ(CONTRAST)

ディスプレイの輝度を調整するときに使います。

⑦ランプスイッチ(LAMP)

ディスプレイの夜間照明用ランプのスイッチです。このスイッチを押している間、点灯します。

⑧キーロックスイッチ(KEY LOCK)

ONにすると前面の各キーの動作とチューニングダイヤルの動作を無効とします。持ち運ぶときなどに使用します。

⑨リセットスイッチ(RESET)

マイコンを初期状態にするスイッチです。

⑩スピーカー

⑪外部スピーカー端子(EXT.SP)

外部スピーカーまたは、イヤホン用の端子です。この端子に接続されているときは、内蔵スピーカーから音は出ません。

⑫ハンドストラップ取り付け金具

⑬外部電源ジャック

付属のACアダプターやカーコネクターを接続することで、電源を供給したり付属のニッケルカドミウム電池への充電ができます。

⑭電池カバー

ディスプレイ

BAND BANK PGM 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
 SCAN PGM-SCAN SEARCH FUNC.
 WFM NFM AM STEP 5 10 12.5 25 50 100
 888_{CH} 1888.888.8
 S ■1■ ■2■ ■3■ ■4■ ■5■
 BUSY PRI DELAY SKIP SAVE BATT BEEP

SCAN

メモリスキャンモードのとき点灯し、無変調パス機能がはたらいているときには点滅します。

PGM-SCAN

プログラムスキャンモードのとき点灯し、無変調パス機能がはたらいているときには点滅します。

SEARCH

サーチモードのとき点灯し、無変調パス機能がはたらいているときには点滅します。

BAND

バンド指定のとき、SEARCHや指定したバンドナンバーとともに点灯します。

BANK

メモリスキャンモードのとき、SCANやメモリーされているチャンネルのバンクナンバーとともに点灯します。

PGM

プログラムスキャンモードのとき点灯します。

1~9, 0

メモリスキャンモードのバンクナンバー、サーチモードのサーチバンドナンバー、プログラムスキャンモードのとき表示します。

FUNC.

ファンクションキーを押すと点灯します。

WFM NFM AM

選択した受信モードが点灯します。

STEP 5~100

選択している周波数ステップが点灯します。

888_{CH}

メモリーチャンネルを表示し、メモリー呼び出しのときに点灯します。また、パスメモリーしているチャンネルを呼び出したときは、CHの点滅となります。

P_u

プライオリティチャンネルを受信しているときや、呼び出したときや登録したときに点灯します。

1888.888.8

・各モードでの周波数や入力中の数字を表示し、入力途中では点滅し、入力後は点灯します。また、Error、ALL PASS、SLEEPなど機器の状態を表示します。

S ■1■

シグナルメーター。受信信号強度に応じて点灯します。

BUSY

スケルチが開いているときに点灯します。

PRI

プライオリティ機能がはたらいているときに点灯します。

DELAY

ディレイ機能がはたらいているときに点灯します。

SKIP

スキップ機能がはたらいているときに点灯します。

SAVE

バッテリーセーブ機能がはたらいているときに点灯します。

BATT

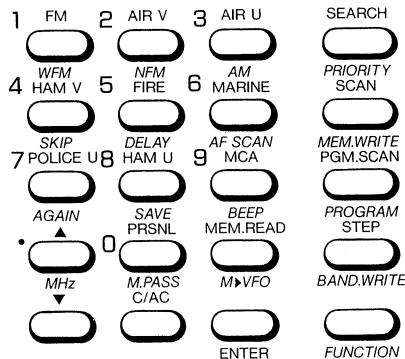
電池が消耗し、充電や電池の交換が必要なときに点灯します。

BEEP

キータッチ音が出るように設定されているときに点灯します。

キーボード

◀ダイレクト入力キー▶



数値キー〔1～9, 0, ・〕

周波数の設定やメモリーチャンネルの設定のときなどに使います。また、サーチをはじめるときは、サーチバンド選択キーとなります。

サーチバンド選択キー〔FM・AIR V～PRSNL〕

聞きたいバンドを選択するキーです。続けてサーチキーを押すと、指定のバンドサーチができます。

FM: FM放送
AIR V: 航空無線、VHF
AIR U: 航空無線、UHF
HAM V: アマチュア無線、VHF
FIRE: 消防、救急
MARINE: 船舶無線
POLICE U: 署活系
HAM U: アマチュア無線、UHF
MCA: 業務(MCA)無線
PRSNL: パーソナル無線

クリア/オールクリアキー〔C/AC〕

周波数または、メモリーチャンネルの設定途中で、入力した数値を訂正するときに押します。
1度押して訂正を受け付ける状態となり、数値キーやチューニングダイヤルで訂正できます。
2度押してオールクリアとなり、入力内容を取り消せます。

エンターキー〔ENTER〕

受信周波数の設定のときに使用し、このキーを押すことで設定が完了します。

アップキー〔▲〕

- ・マニュアル受信のときに1度押すと、周波数がディスプレイ表示のステップ中で、1ステップ移動します。また1秒以上押し続けると、その間周波数を早送りします。
- ・メモリー呼び出しのときに1度押すと、メモリーチャンネルが1チャンネル移動します。また、1秒以上押し続けると、その間チャンネルを早送りします。
- ・メモリースキャンやプログラムスキャンのときは、スキャンの一時停止、スキャン停止中には、1チャンネル強制移動キーとしてはたらき、スキャンの方向指定キーにもなります。
- ・サーチのときには、サーチの一時停止、サーチ停止中には周波数の1ステップ強制移動キーとしてはたらき、サーチの方向指定キーにもなります。
- ・周波数、メモリーチャンネルの設定途中で、クリア/オールクリアキーを1度押したあとに押すと、訂正する桁をシフトできます。また、MHzキーによりMHz単位の周波数訂正をするときは、訂正桁のシフトができます。

ダウンキー〔▼〕

アップキーと逆方向のはたらきをします。

メモリーリードキー〔MEM. READ〕

メモリーチャンネルを呼び出すときに使用します。

サーチキー〔SEARCH〕

FM放送からパーソナル無線まで、あらかじめ設定されているサーチバンドのサーチを始めるときや、目的の周波数がないときなど、自動的に交信局を探すときに使用します。1度押しでサーチが開始し、もう1度押すとサーチモードを解除します。

メモリースキャンキー〔SCAN〕

あらかじめメモリーしたチャンネルをスキャンさせるときに使用します。
1度押しでスキャンが開始し、もう1度押すとスキャンモードを解除します。

プログラムスキャンキー〔PGM. SCAN〕

あらかじめプログラムスキャン登録したチャンネルをスキャンさせるときに使用します。
1度押しでプログラムスキャンが開始し、もう1度押すとプログラムスキャンモードを解除します。

ステップキー〔STEP〕

周波数ステップを選択するときに使用します。マニュアルモードやサーチモードのときにこのキーを押すと、5、10、12.5、25、50、100kHzステップを順次選択できます。

ファンクションキー〔FUNCTION〕

1つのキーの動作を同色の機能に切り替えるときに使用します。

各部の名称とはたらき

◀ファンクションキーに続けて押すことで動作するキー▶

受信モード選択キー(WFM/NFM/AM)

ワイドFM/ナローFM/AM各モードを選択するときに使用します。

スキップキー(SKIP)

サーチ、メモリスキャン、プログラムスキャンのとき、1つの通信局の受信時間を5秒間として、自動的に次の交信局の受信へと移行するときに使用します。

ディレイキー(DELAY)

サーチ、メモリスキャン、プログラムスキャンのとき、信号が途切れてから次の受信局へ移るまでの時間を遅らせるときに使用します。通常は2秒間ですが、ディレイがはたらくと4秒間となります。

AFスキャンキー(AF SCAN)

サーチ、メモリスキャン、プログラムスキャンのとき、通話せずに電波のみがでている局(無変調信号)を受信したときは、3秒後に次の受信へと移行します。

アゲインキー(AGAIN)

サーチ、チャンネルメモリスキャンのときに、直前に受信していた受信局(チャンネル)に戻るときに使用します。

セーブキー(SAVE)

電池の寿命を伸ばすとき使用します。マニュアル受信およびメモリー呼び出しによる受信のときのみはたらくます。

ビーブキー(BEEP)

キータッチ音を消すときに使用します。

MHzキー(MHz)

マニュアル受信のとき、MHz単位の周波数移動を行うときに使用します。

メモリーパスキー(M. PASS)

すでにメモリー登録してある特定のチャンネルをスキャンモードからパスするときに使用します。

メモリーVFOキー(M▶VFO)

すでにメモリー登録してある周波数をマニュアルモードに移すときに使用します。

プライオリティキー(PRIORITY)

プライオリティ機能をはたかせるときに使用します。

メモリーライトキー(MEM WRITE)

チャンネルメモリーをするときに使用します。また、特定チャンネルのメモリーした内容を消去するときにも使用します。

プログラムスキャン登録キー(PROGRAM)

すでにメモリーしてある特定チャンネルをプログラムスキャンチャンネルとして登録するときに使用します。また登録した内容を消去するときにも使用します。

バンドライトキー(BAND WRITE)

サーチバンドのメモリー内容を書き替えるときに使用します。

電源について

- 本機はニッケルカドミウム電池での携帯使用のほかに、ACアダプターによる家庭電源使用、カーコネクタによる車載使用もできます。

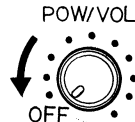
- 本機は単3形ニッケルカドミウム電池を4本付属しています。

充電のしかた

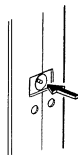
- 付属のACアダプターまたは、付属のカーコネクタを使用して充電します。

- 初めて使用するときや、使用中ディスプレイにBATT表示がされたときは、必ず充電をしてください。

電源/音量調節ツマミを必ずOFFにします。



- 2 ACアダプターまたは、カーコネクタのDCプラグを本機の外部電源ジャックに差し込みます。



- 3 約15時間で満充電となり、通常使用で約4～5時間の連続動作が可能です。

注意

- ・付属のカーコネクタは、12V車専用です。
- ・電源/音量調節ツマミをONにした状態では充電できません。
- ・アルカリ/マンガン乾電池も使用できますが、充電すると事故につながるのをご注意ください。
- ・あまりに長時間の充電は、付属のニッケルカドミウム電池の寿命を短くするだけでなく、発熱などの原因にもなるのをご注意ください。

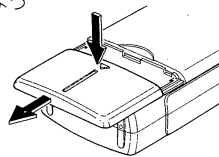
電池について

注意

- ・付属のニッケルカドミウム電池は、過度放電すると充電ができにくくなるので、早めに充電してください。
- ・種類の異なる電池や古い電池などを混ぜて使用しないでください。
- ・電池交換は、必ず電源／音量調節ツマミをOFFにしてから行ってください。
- ・長期間使用しないときは、電池を取り出してください。

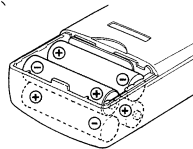
裏面の電池カバーを図のように開けます。

1



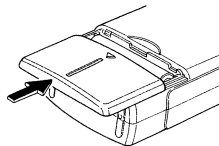
電池4本を⊕⊖確認してから、内側のテープの図に合わせて入れます。

2



電池カバーを閉めます。

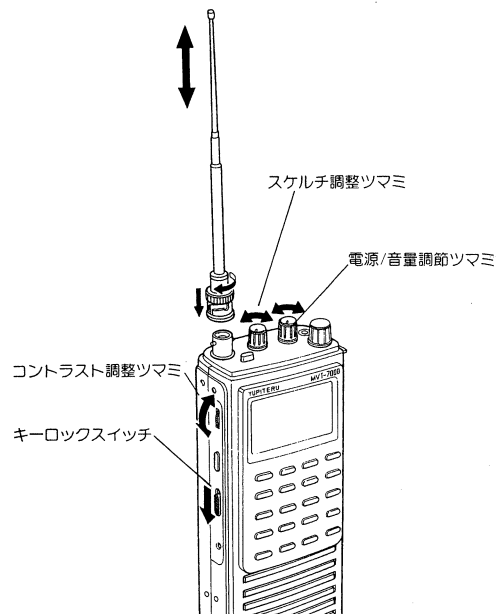
3



第2章

基本的な操作

キー操作を始める前に	18
数値キーによる選局	20
・周波数の入力	20
・周波数ステップの選択	20
・受信モードの設定	21
・▲、▼キーによる1ステップ移動と早送り、早戻し	22
・入力周波数の訂正	23
・受信周波数のMHz移動	24
チューニングダイヤルによる選局	26
・チューニングダイヤルによる選局	26
サーチ機能について	28
・バンド指定サーチ	28
・一時停止と方向指定	29
・連続サーチ	30



1 付属のロッドアンテナ（または市販のアンテナ）をアンテナ接続端子に差し込み、アンテナコネクターを時計方向に1/4回転させ固定させます。

2 アンテナは長さを変えたりして、良い受信状態となるように調整してください。
低い周波数のとき伸ばし、高い周波数では短くすると、同調が得られやすくなります。

3 キーロックスイッチをOFFにします。

4 スケルチ調整ツマミを左に回しきります。

5 電源/音量調節ツマミを右に回し電源を入れます。
このとき、ディスプレイが表示します。

6 コントラスト調整ツマミで、ディスプレイの輝度を調整します。

7 電源/音量調節ツマミをさらに回して、お好みの音量に調節します。

8 スピーカーから「ザー」という音が出ているときは、ノイズが消える位置までスケルチ調整ツマミを右に回します。
また、スピーカーから音声が出ているときは、スケルチ調整ツマミを中程まで回します。



- ・リセットスイッチを押したときなど、初期設定値が呼び出されたときの周波数表示は、144.000.0となります。
- ・無信号のときに「ザー」という音が消える位置まで調整すると、ディスプレイの**BUSY**表示が消えます。
- ・アンテナはコネクター部を持ち、しっかり取り付けてください。

注意

- ・電源スイッチを入れたときに、ディスプレイの表示内容を確認してください。ディスプレイに**BATT**が表示されたときには、充電または電池を交換してください。
- ・スケルチ調整ツマミを右に回しすぎると弱い電波が受信できなくなり、また、左に回しすぎると雑音などを受信してしまうので、聞きたい電波の強さに合わせて調整してください。

数値キーによる選局

周波数の入力

1 受信したい周波数を、数値キーにより最上位の桁から順に入力します。



2 エンターキーを押すと、周波数の表示が点滅から点灯に変わり、入力が完了します。



- 本機の受信周波数範囲以外の周波数を入力すると、2秒間**Error**表示し、入力する前の受信周波数に戻ります。
- 本機の受信保証範囲は、8～1,300MHzですが、0.1～1,300MHzまで入力できます。
- 表示の周波数ステップで登録することのできない周波数が入力されたときは、許容ステップの周波数に強制修正されます。
- キーの入力は、最終キーを押してから10秒以内に行ってください。10秒以内に操作をしないと、操作前の周波数に復帰します。

周波数ステップの選択

■キーボードのアップキーやダウンキー、チューニングダイヤルで周波数を可変するときに、移動する周波数の間隔を周波数ステップといい、本機は、5、10、12.5、25、50、100kHzの周波数ステップを備えています。

■表示の周波数からサーチを始めるときや、周波数を可変するときには、選んでいるステップで周波数が移動するので、これらの操作をするときには、あらかじめ希望のステップをステップキーを押すことで選んでおきます。

■周波数ステップは、ディスプレイに表示されます。

1 マニュアルモードまたは、サーチモードのときに、希望の周波数ステップになるまで、ディスプレイを見ながら、ステップキーを押します。



- ワイトFMモードを選んでいるときの周波数ステップは、50または100kHzの選択となります。
- 本機のサーチバンドメモリーにおいては、あらかじめそれぞれのバンドに適した電波型式と周波数ステップが設定されています（63頁参照）。

受信モードの設定

■マニュアルモードまたはサーチモードのとき、受信モードの選択ができます。

1 ファンクションキーを押します。



2 続けて、WFM/NFM/A
Mのいずれかのキーを押すこ
とで、希望の受信モードが設
定できます。



電波型式について

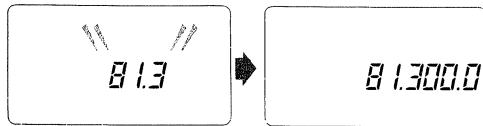
本機の受信範囲には、アマチュア無線、業務無線、パーソナル無線などの他、FMテレビ放送、航空無線など電波型式の異なる数多くのバンドが含まれています。

これら電波型式の異なる通信を受信するためには周波数を合わせるだけでなく、それぞれのバンドに適した受信モードを設定する必要があります。

本機は、マニュアルモード、サーチモードのときに、ファンクションキーに続けてWFM/NFM/AMキーを押すことで、それぞれワイドFM/ナローFM/AMの受信モードが選択でき、ディスプレイに表示されるので、受信する前にセットしてください。

WFM	FM放送 テレビ音声 (1~3ch) テレビ音声 (4~12ch) テレビ音声 (UHF)	76~ 90 90~108 175~222 475~770
NFM	アマチュア無線 アマチュア無線 アマチュア無線 アマチュア無線 船舶無線 パーソナル無線	50~ 54 144~ 146 430~ 440 1260~1300 156~ 162 903~ 905
AM	航空無線 (VHF) 航空無線 (UHF) 市民ラジオ	108~142 222~330 27~ 28

<例> 81.3MHzのFM放送を受信したい場合。

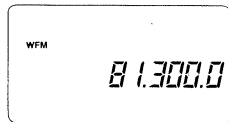


8 1 . 3

周波数を入力します。

ENTER

エンターキーを押します。



FUNCTION → WFM

受信モードを設定します。

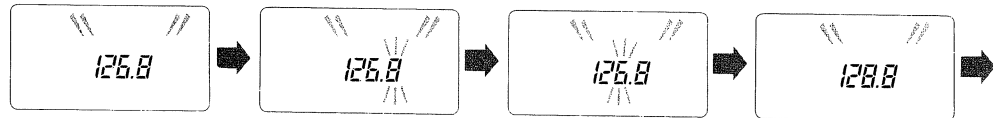
▲、▼キーによるステップ移動と早送り、早戻し

■マニュアルモードのとき、アップキーまたはダウンキーを押すと、周波数が選択している周波数ステップで、1ステップアップまたは、ダウンします。
また、1秒以上押し続けると、押されている間は受信周波数範囲を早送り、早戻しします。

入力周波数の訂正

■入力周波数を誤って入力したときは、エンターキーを押して始めからやり直すか、クリア／オールクリアキーを1度押し、数値キーかチューニングダイヤルで数値を訂正します。

<例> 128.8MHzを入力するつもりが、誤って126.8を入力した場合



C/AC

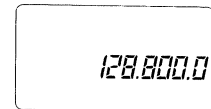
クリア／オールクリアを1度押します。このとき、入力数値は点滅し、訂正数値は早く点滅します。

▲

アップキーで訂正桁を指定します。
クリア／オールクリアを1度押した後、アップキー、ダウンキーを押すと、訂正桁のシフトができます。

8

正しい数値を入力します。



ENTER

エンターキーを押します。



・エンターキーを押した後または、クリア／オールクリアキーを2度押した後では、入力周波数の訂正はできないので、始めからやり直すか、アップキーやダウンキー、またはチューニングダイヤルで、周波数をステップ移動して合わせてください。

数値キーによる選局

受信周波数のMHz移動

■マニュアルモードのときにファンクションキーに続けてMHzキーを押すと、数値キーまたはチューニングダイヤルでMHz単位の周波数移動ができます。

1 マニュアルモードにします。

2 ファンクションキーを押します。



3 MHzキーを押します。



4

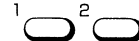
10MHzまたは100MHz単位の周波数移動をしたいときは、アップキーを1度または2度押すと、訂正桁がシフトします。



・ダウンキーを押したときは点滅中の桁を下位桁(1MHz桁まで)へシフトします。

5

チューニングダイヤルまたは、数値キーにより、移動したい数値を入力します。

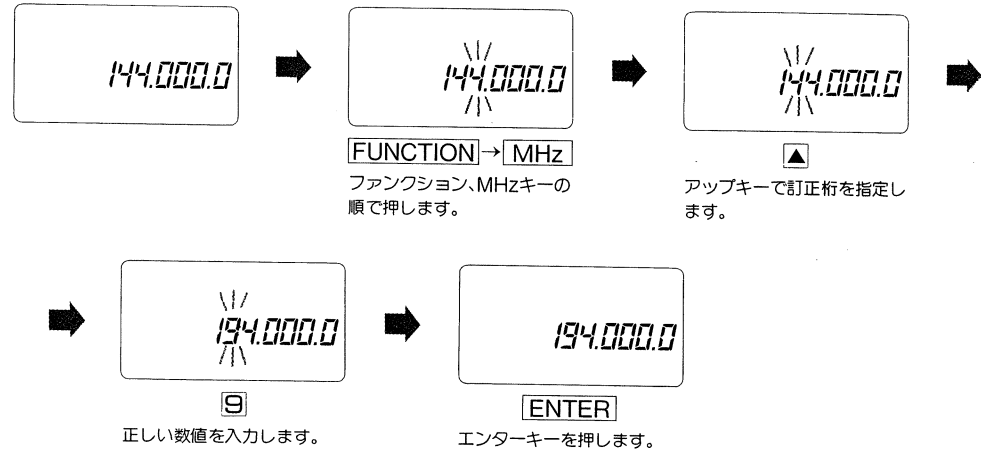


6

エンターキーを押すと入力が完了します。



<例> 現在表示している144.0MHzの10MHzの桁を移動し、194.0MHzとしたい場合



チューニングダイヤルによる選局

■マニュアルモードのときにチューニングダイヤルを回すと、表示している周波数ステップで、周波数が変化します。

マニュアルモード(SEARCH、SCAN、PGM-SCANや、メモリーチャンネルナンバーが表示していない状態)にします。

サーチモードの解除：

サーチキーを押します。



メモリスキャンモードの解除：

スキャンキー、メモリーリードキーの順で押します。



プログラムスキャンモードの解除：

プログラムスキャンキーを押します。



メモリー呼び出しモードの解除：

メモリーリードキーを押すか、M▶VFOキーにより、メモリーチャンネルの周波数をマニュアルモードに移します。

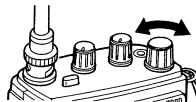


2 周波数ステップを選びます。



3 受信モードを設定します。

4 以上の設定ができればチューニングダイヤルを回します。周波数が表示のステップで変化します。

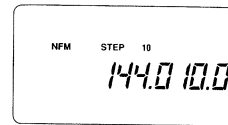


チューニングダイヤルによる選局

<例> チューニングダイヤルによる周波数のアップ・ダウン



現在の表示。



チューニングダイヤルを右に回すと、表示の受信モード、周波数ステップで、周波数がアップします。



チューニングダイヤルを左に回すと、表示の受信モード、周波数ステップで、周波数がダウンします。



- ・電波には、若干の幅(占有周波数帯幅)があります。この幅の範囲であれば電波を受信しますが、正確な周波数で受信したことになりません。
- ・周波数ステップを大きいステップにしておくと、正確な周波数をキャッチできないことがあるので、周波数ステップはできるだけ小さいステップにして、選局してください。また、シグナルメーターを目安にすると、正確な周波数を受信することが簡単になります。

受信信号が強い

S ■1■ ■2■ ■3■ ■4■ ■5■

受信信号が弱い

S ■1■

バンド指定サーチ

■目的の周波数がわからないときでも、FM放送、航空無線、パーソナル無線など、あらかじめデータ入力されている10個のバンドにダイレクトに飛び込むことができ、自動的に交信局を探すことができる機能です。

1 スケルチ調整ツマミを回して、ノイズが出ないようにします。



2 バンド選択キーの中から、聞きたいバンドのキーを押します。



3 サーチキーを押すと、自動的に選局を開始します。このときLCDディスプレイには**SEARCH**と**BAND**、1~9.0のいずれかが表示されます。



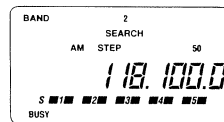
- ・サーチバンド選択キーのFM、AIR V~PRSNLには、あらかじめ63頁のデータが入力されています。聞きたいバンドを選びキー指定の後にサーチキーを押せば選んだバンドのサーチを開始し、交信局を探します。電波が入ればそこで受信となり、電波が切れると再び周波数が移動し、次の交信局を探します。
- ・FM~PRSNLまでの10バンドのデータは、バンドメモリーの方法(56頁参照)により、任意に書き替えることができます。
- ・バンドサーチ中、受信モードおよび周波数ステップを変更することもできますが、本機ではあらかじめそのバンドに適した受信モード、周波数ステップを設定してあります(63頁参照)。
- ・サーチ中に再度サーチキーを押すと、サーチモードは解除されます。

<例> エアーバンド (AIR VHF) を受信したい場合。



AIR V

AIR Vキーを押します。



SEARCH

SEARCHが表示されるとともに周波数が移動し、交信局を探します。電波が入ればそこで受信となります。

一時停止と方向指定

■一時停止

サーチ中にアップキーまたは、ダウンキーを押すと、サーチが一時停止し、ディスプレイの周波数で1秒間の待ち受け受信となります。

またその時間内に信号が入らなかったときは、再びサーチを開始します。

■方向指定

サーチ停止中にアップキーまたは、ダウンキーを押すと、周波数の1ステップ送りとなり、その後は指定された方向へのサーチとなります。

連続サーチ

■周波数がわからないときや、正確にはわからないが、ほぼ見当がついているときなど、表示の周波数から本機の受信周波数範囲内を、表示の受信モード、周波数ステップで、自動的に交信局を探す機能です。

1 スケルチ調整ツマミを回して、ノイズが出ないようにします。



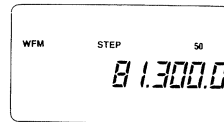
2 あらかじめ、受信モードと周波数ステップを選択しておきます。

3 サーチキーを押すと、自動的に選局を開始します。

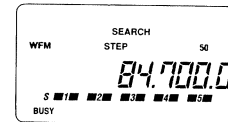


- ・サーチキーを押すと、ディスプレイ表示の周波数から表示の受信モード、周波数ステップで本機の受信周波数範囲内をアップ方向に周波数を移動し、交信局を探します。電波が入ればそこで受信となり、電波が切れると再び周波数が移動し、次の交信局を探します。
- ・サーチ中に再度サーチキーを押すと、サーチモードは解除します。
- ・受信周波数のだいたいの見当がついているときは、あらかじめ周波数入力した後、サーチを開始し、アップ・ダウンキーを使用すると周波数の移動方向を変更でき、目的の交信局を探すのに便利です。

<例> 表示の周波数からサーチを開始する場合。



現在の表示



SEARCH

サーチキーを押すと、周波数が表示のステップで自動的に移動し、交信局を探します。電波が入れば、そこで受信となります。

第3章

メモリーとスキャンについて

チャンネルメモリーのしかた	34
・チャンネル指定メモリー	34
・連続メモリー	36
メモリーチャンネルの呼び出し	38
・メモリーチャンネルの呼び出し	38
・チャンネル送り	39
・マニュアルモードへの移動	40
・バスメモリーの方法	41
・チャンネルメモリーの消去	42
チャンネルメモリースキャンについて	44
・チャンネルメモリースキャンのしかた	44
・一時停止と方向指定	45
バンクスキャンについて	46
・バンクスキャンのしかた	46
プログラムスキャンについて	48
・プログラムスキャンの登録	48
・プログラムスキャンのしかた	50
・一時停止と方向指定	51
プライオリティ機能について	52
・プライオリティチャンネルの登録	52
・プライオリティ受信のしかた	54

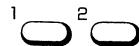
チャンネル指定メモリー

■本機のメモリーチャンネルは200ch(1ch~200ch)あり、マニュアルモード、サーチ停止中にメモリー登録することができます。

■本機のメモリーチャンネルは、20chを1バンクとし、合計10バンク(200ch)のメモリーを可能としています。チャンネルメモリーをするとき、メモリー内容をグループ分けし、各バンクに対応したチャンネルにメモリーをすると、バンクスキャンが有効となります。(46頁参照)

1 目的の周波数を入力し、受信モードを選択します。

2 希望のメモリーチャンネル(1ch~200ch)を数値キーで設定します。このときディスプレイに表示されている数値が点滅します。



3 ファンクションキーを押します。



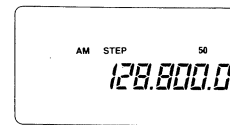
4 メモリーライトキーを押します。ピープ音が「ピッピッ」と鳴れば完了です。



- ・メモリーはディスプレイ表示の受信モード、周波数ステップで登録されます。
- ・200ch以上のメモリーチャンネルが登録されたときは、Errorの表示を2秒間行った後、キー操作される前の状態に戻ります。また、すでにメモリーされているチャンネルに後からメモリーすると、前のメモリーは書き替えられます。
- ・0chへの登録は、プライオリティチャンネルの登録となります(52頁参照)。

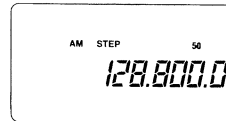
チャンネルメモリーのしかた

<例> 航空無線の周波数128.8MHzを13chにメモリーしたい場合

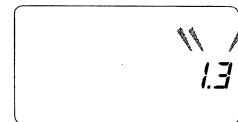


1 2 8 . 8 → ENTER
FUNCTION → AM

周波数を入力し、受信モードを設定します。



1秒後、チャンネルナンバーの表示は消え、周波数のみの表示となります。



1 3

メモリーチャンネルを設定します。



FUNCTION → MEM.WRITE

登録は完了です。

連続メモリー

■マニュアルモードやサーチ停止中に、メモリーチャンネルの設定を省略し、連続的にメモリーすることができます。

1 目的の周波数を入力し、受信モードを選択します。

2 ファンクションキーを押します。



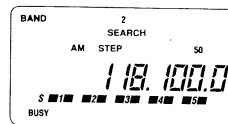
3 メモリーライトキーを押します。ピープ音が「ピッピッ」と鳴れば完了です。



- ・メモリーは、最後に呼び出したチャンネルから順次メモリーされます。
- ・チャンネルメモリーのあと、メモリー呼び出しを行ったときには、最後にメモリーしたチャンネルに、プラス1されたチャンネルが呼び出されます。
- ・サーチ受信のときなど、交信局を受信しているときには、周波数の入力や、受信モードの設定の必要はありません。ディスプレイに表示されている周波数が、表示の受信モードでメモリーされます。

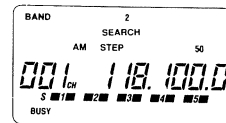
チャンネルメモリーのしかた

<例> 航空無線のバンド（AIR V）をサーチし、通信局を連続的にメモリーしたい場合



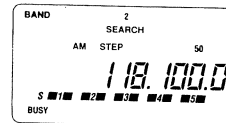
AIR V → SEARCH

AIR V のサーチを行い受信します。



FUNCTION → MEM.WRITE

登録は完了です。



1 秒後チャンネルナンバーの表示は消え、サーチモードに戻ります。

メモリーチャンネルの呼び出し



- ・チャンネルナンバーを設定せずに、メモリーリードキーを押したときは、それ以前に呼び出されていたチャンネル（ラストチャンネル）から呼び出されます。
- ・チャンネルメモリーのあと、メモリーリードキーを押したときは、最後にメモリーしたチャンネルにプラス1されたチャンネルが呼び出されます。
- ・1ch～200chまでメモリーされていないチャンネルも呼び出せますがこのときの周波数は000.000.0を表示します。
- ・0chを呼び出したときはプライオリティチャンネルの呼び出しになります。
- ・201ch以上のメモリーチャンネルを呼び出したときには、ディスプレイに**Error**を2秒間表示にした後、誤操作を行う前に受信していた状態に戻ります。
- ・メモリー呼び出し中に、再度メモリーリードキーを押したときには、メモリー呼び出し前に受信していたマニュアルモードの交信局の受信に戻ります。
- ・パスメモリーしたチャンネルを呼び出したときは、ディスプレイのCHが点滅となります。



1 数値キーで呼び出すチャンネルを設定します。
このとき、ディスプレイに表示されている数値が点滅します。

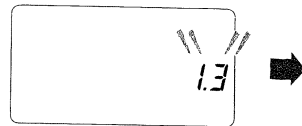
2 メモリーリードキーを押します。

メモリーチャンネルの呼び出し

チャンネル送り

- メモリー呼び出しの後、アップキーやダウンキー、またはチューニングダイヤルを回すと、1チャンネルのアップまたはダウンとなります。またアップキーやダウンキーを押し続けたときは、1ch～200ch間の早送りまたは早戻しとなります。

<例> 13chにメモリーされている128.8MHzの受信局を呼び出す場合



1 3

呼び出すメモリーチャンネルを設定します。



MEM.READ

呼び出しは完了です。

マニュアルモードへの移動

■チャンネルメモリーの周波数をマニュアル（VFO）モードに移すことができます。

1 希望のメモリーチャンネルを呼び出します。

2 ファンクションキーを押します。



3 メモリーVFOキーを押すと操作は終了です。



・周波数ステップおよび受信モードもメモリーチャンネルのものが移されます。

<例> 13chを呼び出しメモリーされている128.8MHzをマニュアルモードに移す場合



1 3 → MEM.READ

メモリーチャンネルを呼び出します。



FUNCTION → M-VFO

マニュアルモードへ移動します。

バスメモリーのしかた

■メモリー呼び出しの後、またはスキャンモード（44頁参照）で信号を受信しているときに、バスメモリーを設定すると、その後のスキャンモード中に、そのチャンネルを受信しないようにはたります。

1 バスメモリーしたいチャンネルを呼び出します。

2 ファンクションキーを押します。



3 バスキーを押します。



・スキャンモードでの受信（スキャン停止中）は、メモリーチャンネルの呼び出し状態になっています。



- ・メモリー呼び出しの後、再度ファンクションキー、バスキーの操作で、バスメモリーは解除されます。
- ・チャンネルメモリーされていないチャンネルでは、バスメモリーは受け付けません。
- ・バスメモリーされたチャンネルは、メモリー呼び出しを行なったとき、チャンネルナンバーのCHが点滅します。
- ・プライオリティチャンネルをバスメモリーすることはできません。

<例> すでにメモリー登録されている13chをバスメモリーし、スキャンモードからバスしたい場合



1 3 → MEM.READ

メモリーチャンネルを呼び出します。



FUNCTION → M.PASS

13チャンネルのバスメモリーが完了です。

チャンネルメモリーの消去

■チャンネルメモリーした内容を消去したいときに使います。

1 消去したいメモリーチャンネルを呼び出します。



MEM.READ

M/VFO

2 ファンクションキーを押します。



FUNCTION

3 メモリーライトキーを押すと、操作は終了です。



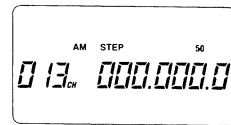
MEM.WRITE



- ・メモリーを消去すると、周波数の表示は 000.000.0 となります。
- ・交信を受信中のメモリーチャンネルを消去したときには、メモリー内容は消去されますが、他のモードに入るまで受信は継続されます。
- ・プライオリティチャンネルのメモリー消去はできません。

メモリーチャンネルの呼び出し

<例> 13chに登録されているメモリーを消去したい場合



1 3 → MEM.READ

メモリーチャンネルを呼び出します。

FUNCTION → MEM.WRITE

メモリーの消去は完了です。

チャンネルメモリスキャンのしかた

■ スキャンキーを押すことであらかじめ登録したメモリー局(1ch~200ch)をスキャンし交信局があればそのチャンネルで停止し、受信となります。電波が切れれば再びスキャンを開始し、次の交信局を探します。

1 あらかじめスケルチ調整ツマミを回し、ノイズが出ないようにします。



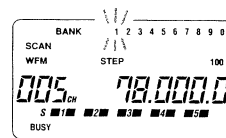
2 スキャンキーを押すと、自動的に選局を開始します。このとき、ディスプレイにはSCANとメモリーされているバンクナンバーが表示され、受信したときのバンクナンバーが点滅します。



- ・もう1度スキャンキーを押すと、スキャンモードを解除します。
- ・メモリーされているチャンネルのみをスキャンし、なにもメモリーされていないときには、スキャンモードに入りません。
- ・メモリーされているチャンネルが、すべてパスメモリーされているときには、ディスプレイにALL PASSを表示し、スキャンモードに入りません。

チャンネルメモリスキャンについて

<例> チャンネルメモリーした各チャンネルをスキャンしたい場合



SCAN

スキャンキーを押すとSCANが表示され、自動的にメモリーチャンネルを移動し、交信局を探します。

一時停止と方向指定

■一時停止

スキャンしているときに、アップキーまたはダウンキーを押すと、スキャンが一時停止し、ディスプレイのチャンネルで、1秒間の待ち受け受信となります。

■方向指定

スキャン停止中に、アップキーまたはダウンキーを押すと、1チャンネル送りとなり、その後は指定された方向へのスキャンとなります。



- ・チャンネル移動中は、チューニングダイヤルの操作が無効となります。また、受信中(スキャン停止中)にチューニングダイヤルを回すと、チャンネルが1チャンネル移動しスキャンモードを継続します。

バンクスキャンのしかた

■本機のチャンネルメモリーは、20チャンネルを1バンクとし、合計10バンク、200チャンネルのチャンネルメモリーを可能としています。スキャンモードに入るとき、数値キーでスキャンバンクを指定してからスキャンキーを押すと、特定のバンクのみをスキャンすることができます。

1 あらかじめスケルチ調整ツマミを回しノイズが出ないようにします。



2 数値キーでスキャンバンクを指定します。
スキャンバンクは、数値キーを続けて押すことで最大4バンク指定できます。このとき、ディスプレイに指定した数値が点滅します。



3 スキャンキーを押すと、指定バンクのスキャンが開始します。



・バンクナンバーとメモリーチャンネルの関係

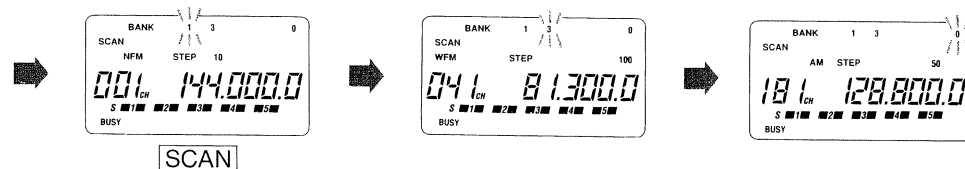
バンクナンバー(BANK)	1	2		9	0
メモリーチャンネル(ch)	1~20	21~40		181~180	181~200

- ・キー指定したバンクスキャン機能は、次に他のモードに入ると解除されます。
- ・バンクスキャン指定したすべてのチャンネルがパスメモリーされているときには、ディスプレイに ALL PASS を2秒間表示した後直前の受信状態に戻ります
- ・バンク指定は、メモリーされているバンクのみ受け付けられます。

<例> あらかじめチャンネルメモリーされている10バンク中のバンク1(1~20ch)、バンク3(41~60ch)、バンク0(181~200)のみをスキャンさせたい場合



スキャンバンクを指定。



スキャンキーを押すとキー指定されたバンクをスキャンします。このときディスプレイには、1、3、0のバンクナンバーが点灯し、信号を受信すると現在のバンクが点滅します。

プログラムスキンの登録

■本機は、あらかじめ登録されているメモリーチャンネルの中の、任意の10個をスキャンできるプログラムスキン機能を持っています。

1 プログラムスキン登録したいチャンネルを呼び出します。

2 ファンクションキーを押します。



3 プログラムキーを押します。ピープ音が「ピッピッ」と鳴れば完了です。



- ・プログラムスキンの登録内容の確認はプログラムスキンモードにし、スケルチを開いた状態でアップキーやダウンキーを押して確認できます。
- ・プログラムスキン登録は1～9、0の順序で登録され、10個以上の登録すると、順次書き替えられます。
- ・プログラムスキン登録の消去は、数値キー(1～9.0)、ファンクションキー、プログラムキーの順で押すと消去されます。
- ・次回のプログラムスキン登録は、消去したプログラム番号から連続して登録されます。

プログラムスキンについて

<例> 5chにメモリーされている78MHz(WFMモード)をプログラムスキン登録する場合



5 → MEM.READ

メモリーチャンネルを呼び出します。

FUNCTION → PROGRAM

プログラムスキンの登録は完了です。

プログラムスキャンのしかた

■あらかじめプログラムスキャン登録した10チャンネルをスキャンする機能です。

1 スケルチ調整ツマミを回し、ノイズが出ないようにします。



2 プログラムスキャンキーを押します。ディスプレイにPGM-SCANを表示し、プログラムスキャンを開始します。



- ・プログラムスキャンはラストチャンネルからディスプレイに表示されたPGM1～9、0の順序でおこなわれ、プログラムスキャン登録されたチャンネルのみをスキャンします。
- ・再度プログラムキーを押しますと、プログラムスキャンが解除され、プログラムスキャンに入る前の状態に戻ります。
- ・プログラムスキャン中は、チューニングダイヤルの操作が無効となります。また、受信中（プログラムスキャン停止中）にチューニングダイヤルを回すと、プログラムチャンネルが1チャンネル移動し、プログラムスキャンモードを継続します。

プログラムスキャンについて

一時停止と方向指定

■一時停止

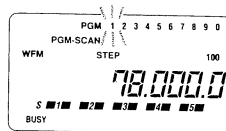
プログラムスキャンしているときに、アップキーまたはダウンキーを押しますと、スキャンが一時停止し、ディスプレイのチャンネルで1秒間の待ち受け受信となります。

また、その時間内に信号が入らないときには、再びプログラムスキャンを開始します。

■方向指定

スキャン停止中に、アップキーまたはダウンキーを押しますと1チャンネル送りとなり、その後は指定された方向へのプログラムスキャンとなります。

<例> あらかじめプログラムスキャン登録したチャンネル内をスキャンさせたい場合



PGM-SCAN

プログラムスキャンを開始し、交信局を探します。このとき、信号を受信しているプログラム番号が点滅します。

プライオリティチャンネルの登録

■あらかじめ登録されたチャンネルが最優先チャンネルとしてはたらき、メモリスキャン、プログラムスキャン、サーチ、メモリー呼び出し受信、マニュアル受信のいずれにおいても、6秒おきにモニターする機能です。(プライオリティチャンネルを受信したときにはディスプレイのメモリーチャンネルナンバー表示部に**Pch**を表示します。)

1 マニュアルモードで優先したい受信周波数を入力します。

2 受信モードを設定します。

3 数値キーの0を押します。



4 ファンクションを押します。



5 メモリーライトキーを押すと、ピープ音が「ピッピッ」と鳴り操作終了です。



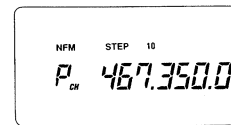
- ・プライオリティチャンネルの登録は0chにメモリーすることで登録できます。
- ・プライオリティチャンネルの初期設定値は144.0MHz、ナローFMモードとなっています。
- ・プライオリティチャンネルのメモリーの登録確認は0chのメモリー呼び出しでできます。
- ・プライオリティは表示の受信モード、周波数ステップで登録されます。

<例> 467.35MHz(ナローFMモード)をプライオリティチャンネルとして登録したい場合



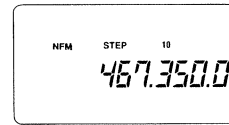
4 6 7 . 3 5 →
ENTER → FUNCTION
→ NFM

周波数を入力し、受信モードを設定します。



0 → FUNCTION →
MEM.WRITE

登録は完了です。



1秒後、Pch表示は消え、周波数の表示となります。

プライオリティ受信のしかた

- 1 受信しているときに、ファンクションキーを押します。

 - 2 プライオリティキーを押すと、プライオリティ機能がはたります。このとき、ディスプレイに**PR I**を表示します。

-  ・プライオリティ機能は、再度ファンクションキー、プライオリティキーの順で押すと解除できます。

第4章 便利な機能

サーチバンド内容書き替え	56
スキップ機能	58
ディレイ機能	58
無変調パス機能	59
アゲイン機能	59
バッテリーセーブ機能	60
ビープ音の消去	60

バンドメモリーのしかた

■本機のサーチバンド選択キーのFM、AIR V～PRSNL
には、あらかじめ63頁のデータが入力されていますが、
この内容を任意に書き替えることができます。

1 あらかじめ、マニュアルモードにし、周波数ステップ
と受信モードを設定します。

2 ファンクションキーを押しま
す。



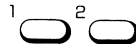
3 バンドライトキーを押します。



4 下限周波数を入力します。

5 上限周波数を入力します。

6 書き替えるサーチバンド選択
キーを押します。

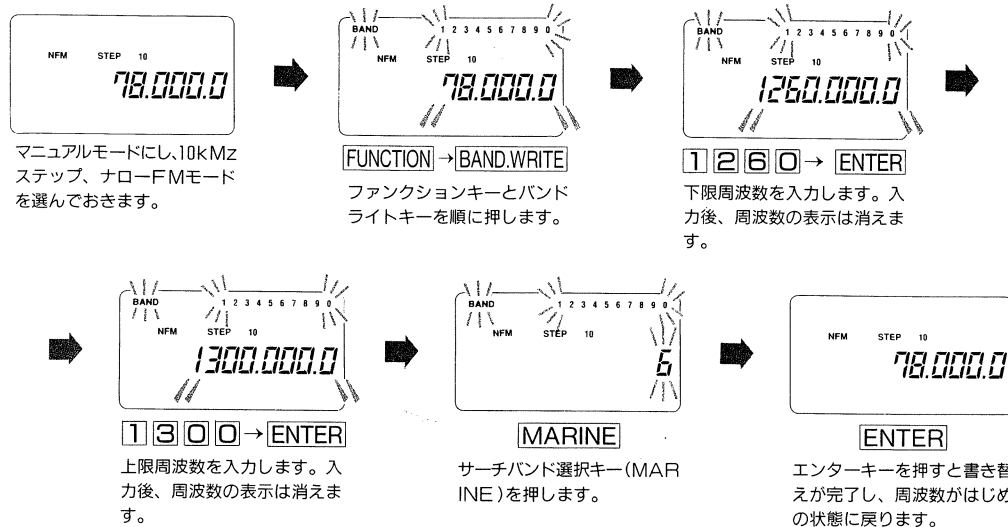


7 エンターキーを押します。
ピープ音が「ピッピッ」と鳴
り、書き替えが完了します。



・下限周波数と上限周波数の入力順序が逆であっても受け付けられます。

＜例＞ バンド選択キー(MARINE)に書き込まれている内容を、ナローFMモード、10kHzステップで1260MHz～1300MHzとしたい場合



スキップ機能

■スキップ機能がはたらいているときは、メモリスキャン、プログラムスキャン、サーチ受信において、一つの交信局の受信時間を5秒間とし、次の受信へと移行するのでインデックスモニターするのに便利です。

1 ファンクションキーを押します。



2 スキップキーを押すと、スキップ機能がはたらきます。



注意 ・スキップ機能は数値キーの入力途中（点滅状態）でははたらきません。

指 ・再度ファンクションキー、スキップキーの順で押すとスキップ機能は解除されます。
・スキップ機能がはたらいているときにはディスプレイに**SKIP**を表示します。

ディレイ機能

■本機のスキャン、サーチ動作では、電波が切れると次の受信へと進んでいきますが、次の受信に移るまでに時間をもたせています。この時間は、通常2秒間に設定されていますが、ディレイ機能がはたらいているときには4秒間となります。

1 ファンクションキーを押します。



2 ディレイキーを押すと、ディレイ機能がはたらきます。



指 ・再度ファンクションキー、ディレイキーの順で押すとディレイ機能は解除されます。
・ディレイ機能がはたらいているときには、ディスプレイに**DELAY**を表示します。

注意 ・ディレイ機能は、数値キーの入力途中（点滅状態）では切り替えできません。

無変調パス機能

■メモリスキャン、プログラムスキャン、サーチ動作において、無変調信号を受信したときには、3秒後に次の交信局へ移行する機能です。

1 ファンクションキーを押します。



2 AFスキャンキーを押すと、無変調パス機能がはたらきます。



指 ・再度、ファンクションキー、AFスキャンキーの順で押すと、無変調パス機能は解除します。
・無変調パス機能がはたらいているときには、ディスプレイに表示される各動作状態(SCAN,PGM-SCAN,SEARCH)の表示が点滅します。

注意 ・無変調パス機能は、数値キーの入力途中（点滅状態）では、はたらきません。

アゲイン機能

■サーチモードの時に、アゲインキーを押すと、同一バンド内で直前に受信していた周波数に戻ります。
また、メモリスキャンモードのときには、直前に受信していたチャンネルに戻ります。

1 ファンクションキーを押します。



2 アゲインキーを押すと、アゲイン機能がはたらきます。



指 ・アゲイン機能は、サーチモードやチャンネルメモリーのスキャンモードのときのみはたらきます。

バッテリーセーブ機能

■電池の寿命を伸ばすために、数秒毎に短時間、電源をONにして信号の有無を検知し、信号があれば受信し続け、無ければ電源をOFFにする機能です。

1 ファンクションキーを押します。



2 セーブキーを押すと、バッテリーセーブ機能がはたらきます。



- ☞
- ・バッテリーセーブ機能は、マニュアル受信やメモリー呼び出しによる信号のときのみにはたらき、メモリースキャン、プログラムスキャン、サーチモードでははたらきません。
 - ・バッテリーセーブ機能がはたらき、無信号によって電源がOFFのときには、ディスプレイに**SLEEP**を表示します。

ビープ音の消去

1 ファンクションキーを押します。



2 ビープキーを押すと、ビープ音を消去します。



- ☞
- ・再度ファンクションキー、ビープキーの順で押すと、キータッチ音が復帰します。
 - ・ビープ音が鳴るように設定されているときは、ディスプレイに**BEEP**を表示します。
 - ・本機は、操作が確実に行われたかどうかを、ビープ音で知らせます。
ビープ音の種類は次のようなものがあります。
 - ・数値キー、単独キーの受け付け……………「ピッ」
 - ・登録完了(メモリー登録、メモリー消去)……………「ピッピッ」
 - ・エラー……………「ピッポッポッ」

注意

- ・ビープ音の消去は、数値キーの入力途中(点滅状態)では設定できません。

第5章 知っておきたいこと

アフターサービスについて	62
一般仕様	62

アフターサービスについて

1保証書

保証書は、必ず「販売店名・購入年月日」等の記入をお確かめの上、販売店からお受け取りいただき、保証内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

2保証期間

お買い上げの日から1年間です。

3修理を依頼されるとき

- ・保証期間中のとき
恐れ入りますが、お買い求めの販売店まで保証書を添えて製品をご持参ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。
- ・保証期間が過ぎているとき
お買い求めの販売店にまずご相談ください。修理によって機能が持続できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

4アフターサービス等についてご不明の点は

お買い求めの販売店、または最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

受信周波数

受信保証周波数範囲8～1300MHz
(表示周波数範囲は0.1～1300MHz)

周波数ステップ

5/10/12.5/25/50/100kHz
(WFMモードは50/100kHzの選択)

受信電波型式

WFM/NFM/AM

受信感度

NFM: 0.5μV以下 (SINAD 12dB)
(1000～1300MHzは1μV以下)
WFM: 0.75μV標準 (SINAD 12dB)
AM: 0.5μV標準 (S/N 10dB)

メモリー数

チャンネルメモリー: 200
バンドメモリー: 10
プライオリティチャンネルメモリー: 1

スキャン/サーチスピード

1秒間に約15チャンネル/20ステップ

アンテナインピーダンス

50Ω

電源

ニッケルカドミウム電池4本 (4.8V)
外部電源12V (充電兼用)

スピーカー最大出力

130mW以上 (4.8V 8Ω)

消費電流

最大出力時: 160mA (標準)
待ち受け時: 95mA (標準)

動作保証温度範囲

0℃～50℃

外形寸法

64.4(W)×159.0(H)×40.0(D)mm (突起部含まず)

重量

330g (アンテナ含まず)

付属品

- ・ロッドアンテナ (1)
- ・ACアダプター (1)
- ・カーコネクター (1)
- ・ニッケルカドミウム電池 (4)
- ・ハンドストラップ (1)
- ・ベルトクリップ (1)
- ・ベルトクリップ取り付けネジ (2)
- ・イヤホン (1)
- ・取扱説明書 (1)
- ・保証書 (1)
- ・お客様ご相談窓口一覧 (1)

別売オプション

- ・ソフトケース (品番: OP-50) ￥2,000 (税別)

一般仕様

バンド		エッジ周波数(MHz)		ステップ (kHz)	受信電波 型式
		下限	上限		
1	FM	76	90	50	WFM
2	AIR V	108.0	142.0	50	AM
3	AIR U	250.0	327.5	100	AM
4	HAM V	144.0	146.0	10	NFM
5	FIRE	146.01	154.5	10	NFM
6	MARINE	156.0	162.05	12.5	NFM
7	POLICE U	347.1875	363.05	12.5	NFM
8	HAM U	430.0	440.0	10	NFM
9	MCA	850.025	859.975	12.5	NFM
10	PRSNL	903.0375	904.9875	12.5	NFM

上記は初期、概入力値